

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 千代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

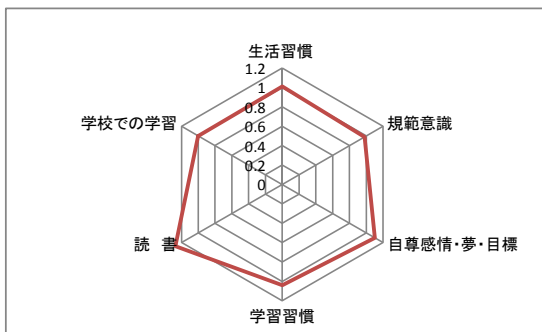
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均をかなり上回っている。</li> <li>・言語における知識・理解・技能に課題がある。</li> <li>・資料を読み取る力が必要である。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、図と表を関係付けて読む問題は、正答率が高かった。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名で表記されたものをローマ字で正しく読む問題は、無回答率が高かった。</li> </ul>	
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均をかなり上回っている。</li> <li>・自分の考えを書くことに苦手意識をもっている傾向がある。</li> <li>・〇字以内でという時数制限に抵抗を感じている傾向がある。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する問題は、正答率が高かった。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題は、無回答率が高かった。</li> </ul>	
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均をかなり上回っている。</li> <li>・小数を含んだ四則計算について課題がある。</li> <li>・図形を頭の中で組み立てる必要がある。空間図形の力が必要である。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形についての技能は、正答率が高かった。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を求める問題は、正答率が低かった。</li> </ul>	
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均をかなり上回っており、記述式の問題にも積極的に取り組んでいる。</li> <li>・最後の方の問題になると面倒になるのか、安易に答えってしまう傾向がある。最後までやり抜く忍耐力が必要である。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの数の大小関係を表す不等号に関しては、正答率が高かった。</li> </ul>	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述する問題は、正答率が低かった。</li> </ul>	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書については、読書ボランティアの方々の読み聞かせや、図書室の環境整備などからもよい影響を受けていると考えられる。</li> <li>・自学についての取組は、各学級で行っているが、計画的に見通しをもって弱点を克服する取組となっている児童の数は、少ない。</li> <li>・挨拶を進んでしたり、学校のルールを守ったりする等、当たり前のことを当たり前に行うことができる子どもが多い。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えをまとめ、相手に分かりやすく伝える活動を子どもの発達段階に応じて、学習活動の中に位置付ける。</li> <li>・全国学力学習状況調査(6年)や北九州市学力学習状況調査(5年)、観点別学習状況調査(1~4年)へ向けての過去問題を継続的に取り入れたり、アシストシートを活用したりする。</li> <li>・学び方を学ぶことや、基礎的基本的な内容のさらなる定着に向け『読む・考える・書く・発表(表現)する』学習活動を丁寧に進めていく。</li> </ul> <p style="text-align: right;">アシストシート・・・国語、算数補助プリント</p>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用方法について保護者会等、機会を捉えて説明しながら家庭と学校が協力して取り組む。</li> <li>・自学ノートや宿題について担任等が丁寧に点検し価値付けながら、進んで取り組む意欲をさらに高めていくようにする。</li> <li>・自学ノートを校内掲示して、価値を認めるとともに、工夫していることを共有したり模倣したりできるようにする。</li> </ul>
--